

# 新年のご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員

進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。秋田県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいる覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和4年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靱化5か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和5年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と

同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、2月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われま。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいる覚悟です。

昨年7月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靱なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年6月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げます、新年のご挨拶にさせていただきます。

# 新年ご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員

宮崎 雅夫

輝かしい初春を迎え、秋田県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様方へ謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進ならびに土地改良施設等の適切な管理や土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、昨年8月まで農林水産大臣政務官を勤めさせていただきましたが、その間、皆様方からお受けした、たくさんのご要望等に対し、それぞれの地域の課題解決等に向け、進藤金日子議員や農水省の職員の皆さん等と共に一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項を含め、昨年12月に成立した令和4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円、このうち、農業農村整備事業関係については、1,677億円（食料安全保障強化対策100億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災、国土強靱化817億円）が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金の高騰に対し、増嵩分の7割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和5年度当初予算の概算額として、前年を上回る4,457億円が計上され、総額6,134億円となる見込みとなりましたが、これから行われる国会での議論において、しっかりと確保できるよう努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、とりわけ、カロリーベースで6割程度を輸入に頼る我が国の食料事情にあって、その安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが求められております。国内農産物の生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業の取組推進や農業農村関係人口の拡大などを含めて、しっかりと推進していくことが重要です。

私も、卯年の今年は年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりと伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいりますので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、秋田県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係機関の益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念申しあげ私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。



由利本荘市平根地区

# 「平根地区」(由利本荘市)のご紹介

## 平根地区の紹介

秋田県の南部、旧鳥海町の平根地区では、平成25年度から県営農地集積加速化基盤整備事業に取り組み、地域農業の持続的発展を図るために米依存から脱却した複合型生産構造への転換を推進してきました。担い手の育成においても、農業法人を設立し、農地中間管理事業を活用して同法人に事業地区内の農地100%を集積しました。さらに、基盤整備事業の成果を活かし園芸メガ団地を整備。リンドウ、アスパラガスなどの高収益作物の生産を本格化し、複合型生産構造へ転換を実現させています。

今回は、土地改良区職員として長年にわたり地域を支え、基盤整備事業にも大いに貢献してきた、由利本荘市土地改良区鳥海出張所長の黒木重徳さんにお話を伺いました。

## 事業概要

**事業名** 県営農地集積加速化基盤整備事業

**工事期間** H25～H30

**主要工事** 区画整理工、用水路工、排水路工、農道工、  
暗渠排水工(地下かんがいシステムあり)

**関係土地改良区** 由利本荘市土地改良区

事業実施前(H24)		H30実績	
水稲	53.7ha	水稲	41.6ha
高収益作物 ・リンドウ ・小菊 ・アスパラガス	1.6ha	高収益作物 ・リンドウ ・小菊 ・アスパラガス	8.8ha
その他作物	2.7ha	その他作物	4.3ha



由利本荘市土地改良区鳥海出張所長  
黒木重徳さん

## インタビュー内容

### 事業実施前の地区の状況について教えてください。

事業に向けて動き始めたのは平成22年頃で、地元には集落営農組織が2つありました。昔からほ場が錯綜し、水管理もごちゃごちゃして大変でした。これらの現状を打破したいと、集落営農組織内から将来の基盤整備を熱望する声が出てきました。そんな中、県から事業の話があり、採択を目指すこととしました。



農事組合法人 平根ファームの皆さん

### 事業を契機として法人を設立し、集積率100%を達成しました。

平成25年に事業採択となり、農地中間管理事業も始まり、集積協力金も活用して26年7月に急遽、農事組合法人平根ファームを立ち上げ、地区内は全て引き受けるということになりました。

私は法人設立に関するバックデータを色々調べ、法務局まで行って、登記まで全部自分でやりました。そういう事務的な部分は俺が全部やるから、皆は法人スタッフとして頑張ってくれと。それぞれ得意分野がありますから。

当時6名であった従業員も、現在は7名です。今では若い人達に作業計画を立てて貰い、農業用ドローンやスマホによるGISシステム活用など主体となって動いてもらっています。女性社員も頑張っていますよ。40代の方で、事務とアスパラ担当ですが、大型の免許も持っており、バイタリティ溢れる方です。

### 販売額1億円を目標とする園芸メガ団地へ取り組んだきっかけを教えてください。

はじめは、私も難しいな、と考えていましたが、計画していた営農構想と事業内容が合致しており、挑戦することとなりました。とにかく急だったので、1週間で資料作成、積算までやりました。大変でしたが、県やJAから協力を仰ぎ、なんとか事業をスタートすることができました。

鳥海リンドウへの取り組みは、平成7年に農業者と当時の町長の意見交換の場で、冬場出稼ぎにいかないで収入になるものはないか、という話から浮上しました。鳥海山に自生していた原種を、長野県で改良したもので、寒冷な気候ならでは、ブルーの鮮やかなものが生まれました。今こそ、機械も導入していますが、最初の頃は夜中の12時から1時頃まで手作業で選別して、翌朝に出荷という大変な作業でした。



リンドウの栽培

現在は、新たにストックという春の花をハウス栽培したり、6月頃の収益となるものがないので新たに玉ねぎを付けたり、切り花用のひまわりやペニバナなど、色々チャレンジを続けています。

### 最後になりますが、黒木さんが感じた基盤整備の効果、メリットについて教えてください。

新規要望の声が増えました。隣の平根2期地区は、今年調査2年目です。皆が平根地区の事を知っているので、初めに声掛けをした時は1週間で要望書ができました。ここから上流の笹子地区も、隣の土地改良区ですが、現在ほ場整備に向かっています。皆が、ここ平根地区を見て影響を受けています。

ほ場整備は利益が上がり、維持管理も楽になります。また、地域の人たちのつながりも維持できていると実感しています。事業を終えて「まだまだ頑張れる」「法人が出来て安心して農地を任せられる」という声を聴くと、私たち土地改良区も農家にとって大切な基盤整備づくりに大きな役割を果たしたと嬉しく思っています。

# 令和5年度農業農村整備事業関係予算

## 概算決定の概要

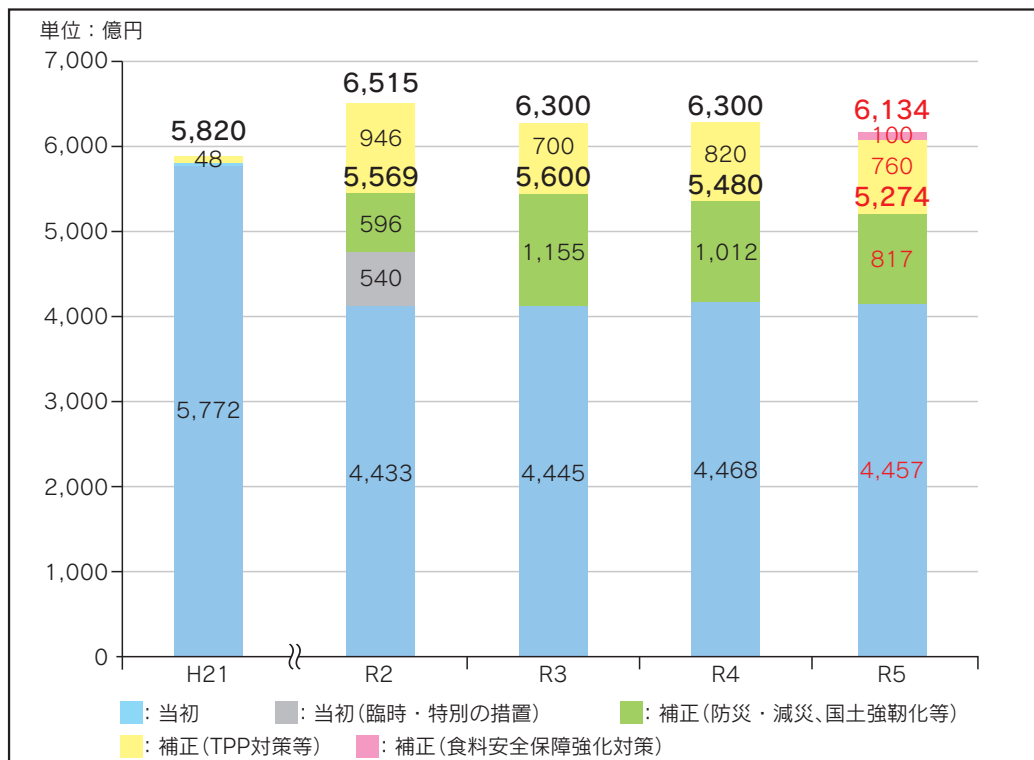
令和5年度農林水産予算について、12月23日に下記の内容が閣議決定された。

(単位：億円)

区分	5年度 概算決定額 A	4年度 補正額 B	合計 A+B	【参考】		
				4年度 予算額 A'	3年度 補正額 B'	合計 A'+B'
農業農村整備事業(公共)	3,323 (100.1%)	-	3,323	3,322	-	3,322
農地耕作条件改善事業	200 (80.6%)	-	200	248	-	248
農業水路等長寿命化・防災減災事業	282 (111%)	-	282	254	-	254
畑作等促進整備事業	20	-	20	-	-	-
農山漁村振興交付金	41 (107.9%)	-	41	38	-	38
農山漁村地域整備交付金(公共)(農業農村整備分)	591 (100%)	-	591	591	-	591
政府情報システム予算	-	-	-	15	-	15
食料安全保障強化対策	-	100	100	-	-	-
TPP等関連農業農村整備対策	-	760	760	-	774	774
国土強靱化対策	-	817	817	-	1,012	1,012
米の臨時特別対策	-	-	-	-	46	46
計	4,457	1,677	6,134	4,468	1,832	6,300

(注) 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。  
2. 下段( )書きは、令和4年度予算額との比率である。

## 農業農村整備事業関係予算(当初及び補正)の推移



### <注目事項>

- 農業農村整備予算は4,457億円を計上。令和4年度補正予算と合わせて6,134億円となる。
- 平成22年度に大幅削減となった農業農村整備予算は、削減前の平成21年度予算を大幅に超える額となった。